



人類に
奉仕する
ロータリー

藤沢東ロータリークラブ 週報

2016~2017 Rotary Club of Fujisawa East



- 会長/石田能治 幹事/林葉之 例会/毎週火曜日 12:30~13:30
- 事務所/藤沢市南藤沢 4-2 吉田ビル 5階 TEL 0466-41-9191 FAX 0466-41-9192
- 例会場/湘南クリスタルホテル藤沢市南藤沢 14-1 TEL0466-28-2111 FAX0466-28-2126

ROTARY SERVING HUMANITY

第 1959 回例会 2017 年 1 月 31 日 (火) (天候) 晴れ No.26

点鐘 開会 クリスタルホテル 5F「ボンヌチャンス」
Bonnie Chance

ロータリーソング:「それでこそロータリー」
ゲスト・スピーカー

福本啓介 様(社会福祉法人白十字林間学校)

ビジター紹介 中野博義 様(東京南 RC)

バナー交換 なし

会食・懇談

-会長報告-

・昨日(1月30日)ステパノ学園へ行ってきました。昨年卓話に来て頂いた小川先生へ図書券を贈呈してきました。大磯の駅近くで丘の上からの眺望が素晴らしく、相模湾が見渡せました。写真を後程回覧しますのでご覧下さい。

よろしくお祈りします。

-表彰&特別挨拶-

米山功労賞マルチプルフェロー
第5回 片岡啓次 会員



-幹事報告-

- ・地区から、規定審議会の立法決議案等の提出のお願いがきております。立法決議案は4月10日まで、立法訂正案は4月末日まで。(地区立法案検討委員会)
 - ・財団ニュースが届いておりますので回覧致しますのでご覧下さい。
 - ・3/8(水)公共イメージセミナーの案内がきております。14:30~17:00 ミナパーク 対象者は山口会長エレクト、吉田新一副幹事、片岡公共イメージ委員長です。
 - ・例会の変更通知が入っております。
- 大和 RC

出席報告

例会月日	総員(名)	出席(名)	欠席(名)	出席率(%)	メークアップ(名)	修正出席率
1月17日	34(30)	18	12	58.06		58.06
1月24日	34(32)	24	7	75.00		

- 2/7(火)例会休会、
- 2/21(火)⇒2/19(日)IMへ振替の為休会
- 3/14(火)⇒3/12(日)55周年記念例会へ振替
藤沢北 RC
- 2/24(金)振替休会⇒2/22(水)桜の植樹

-委員会報告-

- ・次年度の社会奉仕活動について・・・山口 PE、梶浦社会奉仕委員長
- ・塩釜東 RC への渡し船チケットの目録贈呈について・・・梶浦社会奉仕委員長 写真もありますので回覧します。
- ・観桜会について・・・水川親睦委員長 バス手配の必要上人数把握の御案内をします
- ・出席報告 出席委員会
- ・スマイル報告 スマイル委員会

-会員&配偶者誕生日-

会員誕生日 なし

配偶者誕生日 なし

-卓話-

「社会的養護を巣立った子どもたち」
社会福祉法人白十字林間学校 代表 福本啓介様



点鐘
閉会

-スマイル-

田中繁クラブ管理運営委員長

【石田能治 会長】

福本様、本日の卓話よろしくお願い致します。

【林葉之 幹事】

福本様、本日はお忙しい中ありがとうございます。
本日の卓話楽しみにしております。

【加藤信忠 会員】

石井さん、元気になって良かったね。

頑張ってください。

【石井博 会員】

妻の誕生祝に綺麗なお花をいただきまして、ありがとうございました。

【片岡啓次 会員】

東京南 RC の中野様、ようこそいらっしゃいました。
米山マルチプルフェローをいただきました。
ありがとうございます。

【吉田新一 会員】

福本様本日の卓話よろしくお願い致します。東京南 RC の中野様本日はようこそいらっしゃいました。

【片倉昌幸 会員】

福本啓介様、本日の卓話宜しくお願い致します。

【梶浦暁 会員】

あすなるサポートステーション福本様、本日の卓話よろしくお願い致します。

-委員会報告-

次年度の社会奉仕活動について

山口会長エレクト



1/21(土)に地区補助金のセミナーに出席しました。その結果次年度の地区補助金を活用したクラブの社会奉仕活動を行いたいと考えました。

まだ私の次年度の方針を話す機会がまだございませんが、これを機に重要な点を説明を致します。第1に、会員増強を考えております。第2には地元貢献をしたいと思います。今年度のガバナー訪問の際に佐野ガバナーからもお話がありました。私も即座に地元貢献するために地域の社会奉仕

活動をテーマにすることを伝えました。そのためまだ理事会の承認もとっていませんが、地区の事務的な面では、3/31までに申請をして4月に選定委員会が行われ、プロジェクト実行は7月以降との流れになっています。時期的にも今準備をする必要に迫られ、早速「植樹や環境保全・環境美化活動・・・」の項目を元に吉田次年度幹事、林社会奉仕委員長と共に藤沢市役所へヒアリングに行き、打ち合わせを済ませたことを報告します。皆様のご協力をお願いします。

塩釜浦戸諸島の社会奉仕活動について

梶浦社会奉仕委員長



観桜会について

水川親睦委員長



米山功労賞

マルチプルフェロー第5回 片岡啓次 会員



「社会的養護施設を巣立った子どもたち」
 社会福祉法人白十字林間学校 福本啓介 様



みなさん、こんにちは。

ご紹介に預かりました、社会福祉法人白十字林間学校あすなろサポートステーションの所長を務めております福本と申します。本日はよろしくお願い致します。

お話は前のスライドを元に行います。お話の内容に入る前に若干自己紹介を行います。私、あすなろサポートステーションヲ務める前は、児童心理治療施設の職員をやっておりました。現在、神奈川県内に児童養護施設が33施設あります、その他乳児院・児童自立支援施設などを含めると全部で47の施設があります。私はその中の児童心理治療施設の職務を行っておりました。これは大変な体験を抱えた子どもたちの中でも心理的、医療的、教育的なケアが必要とされる子どもたちを対象にしております。入所している7割が精神加薬がないと生きていけない子どもたちです。その施設職員を9年間務めておりました。その前は学校の教員を務めておりました。以上が簡単な経歴です。



私が学校の教員をしている時も施設の職員をしているときも施設に入る子どもたちまたはもう入るべきではないかという子どもたちが沢山いらっしゃいました。このグラフは最新のデータです。前年度の虐待のケースが悲しいことに10万件を超えました。1年間で児童相談所のケースワーカーさん達が10万件の虐待の対応をしております。悲しいことに今現在1週間に2名くらいの割合で子供達が命を失くしている状況です。

かつて児童養護施設では、特にこの湘南地域では、戦災孤児であるお子さんたちが殆どでした。現在は児童養護施設に入るお子さん達の9割以上が保護者がいらっしゃいます。児童養護施設に入るお子さん達は、7割以上が何らかの虐待を受けて入ってきています。

本来、虐待が起きた時は児童相談所が介入をしたりとか保護者との分離を行っていますが、実際に10万件の虐待対応事案においては、育児保護所入所という形で保護者と切り離さないと子どもたちの命が危ないという状況に陥って保護するのが1割です。残りの9割の子どもたちは、虐待に耐えながら地域の中で一生懸命暮らしているのが現状です。

それでも子ども食堂など様々なNGOなど地域の方々に支えられながら、児童相談所が係りながら何とか暮らしている訳です。

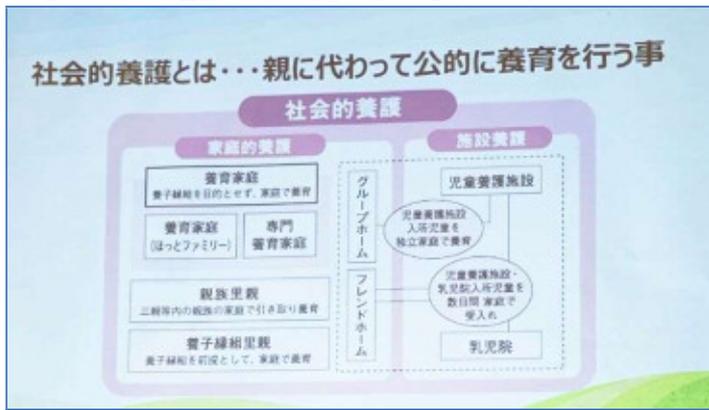
一時保護所に辿り着いた子どもたちの中でさらに児童養護施設に入ってくる子どもたちがその中のさらに1割です。保護所に辿り着いても児童相談所のケースワーカー達は子どもたちや親御さんたちと話し合いながら何とか地域で暮らせないか一生懸命対応するのですが、なかなかうまくいかなくて悲しい事件が起きています。1人のケースワーカーが大体120名の子どもたちを対応して一生懸命に走り回っております。

その中でもうこの家においておけない、親御さんと分離するしかない、という忘れられ子どもたちが児童養護施設に入っています。

今現在国では、児童養護施設だけではなく里親さんという方が増えるように推進をしております。ファミリーグループホームなど地域の小規模児童養護施設などを含めて私たちは「社会的養護」と呼ばせて頂いております。

本来、子育ては親御さんや地域の中で行われていく訳ですが、それが叶わぬ場合に行政における「措置」（行政処分）ということが

行われます。地域に代わって行政により育てると
いうのが「社会的養護」というシステムです。



なぜあすなるサポートステーションができたのか？ということですが、世の中で一番大切な子どもたちが今の法律では18歳の誕生日をもって何の後ろ盾もなく自立をしなければならない。一般家庭の18歳の子どもたちでも18歳はまだいろいろな人に支えられながら、一杯躓きながら大人になっていく段階ですが、その中でも最も難しい時期に親御さんの愛情を受けられなくて施設の中で育った子どもたちにとって一般社会はとても難しい壁です。

あすなるサポートステーション設立趣旨

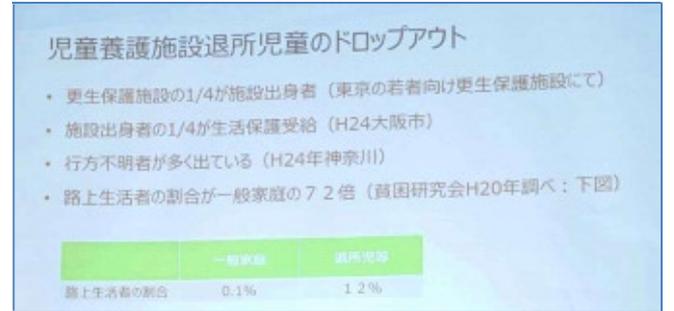
- 児童養護施設等の退所児は地域社会に頼る場所や資源が少ない
- 虐待や貧困など数多くの問題を抱えて育ち、心に傷を抱えている
- ドロップアウトして、生活困窮や路上生活、性産業に身をおすこともある

→貧困、虐待、親との死別その他の社会的孤立状態により、児童養護施設で育った児童、18歳で児童相談所からの支援は終わり、初めての一人暮らしと就職という二つの大きな課題に直面する。しかし、その時に支えてくれる身寄りがない子どもたちはドロップアウトした時に何を頼るのでしょうか。私たちは児童及びその支援者が自立への見通しを持って、児童の社会的自立を促進する手助けをするために設立されました。

今現在も神奈川県では年間約100人ずつ施設を退所されています。現在社会的養護を受けている子どもたちは約4000名近くおります。やはり児童養護施設を出た後には帰る場所がない、というのが一番の問題でした。そもそもが家庭的基盤がない中、家庭を切り離され、そして住んできた地域や友人と切り離され、児童相談所に入ると学校に行けなくなるので学校を切り離され、という状態で児童養護施設に入ります。施設を出ると今まで施設の職員や施設の地域、施設のケースワーカーさんたち、また児童福祉法などのいろいろな基盤をいっきに失って自分の力でやっていかなければなりません。もちろん施設の職員達は施設を出た後も自分達が育てた子どもたちを見守りたい、なんとかケアしたいということに入って来る子どもたちと同じように卒園した子どもたちを休みと、自費を使ってケアし続けました。以前は行政の補助もなく職員たちの自

助努力のなかで、愛情のなかで熱意をもって支援をされていました。その中で虐待防止法が2000年に制定されました。今年2017年で、これからさらに施設を築立っていく子どもたちがどんどん増えていきます。従来の孤児といわれる子どもたちとはまた別の問題を抱えています。

今までは社会生活からドロップアウトして生活保護に陥る子どもたちが非常に多かったです。



更生保護施設・・・東京の若者向け更生保護施設（少年院や刑務所を出所の方が地域に定着するために入る施設ですが）では、児童養護施設の出身者が4分の一いらっしゃるそうです。

大阪府西成区での施設をでた4分の1の方が生活保護を受給しているそうです。神奈川県でも調査した結果行不明者が多いことが分かりました。どうしても身寄りや頼るところがないため、職員さんや里親さん一生懸命ケアするのですが、気付いたら連絡がつかなくなった、生きているかどうか分からない子どもたちが多くでております。

さらに、ショッキングなデータですけれどもビックイシューに掲載されました路上生活者の割合が一般家庭の7.2倍とされています。（貧困研究会H20年調べ）

施設を出た方の約12%が路上生活に陥ると言われています。本来住む家もなく施設退所後の借りているアパートなどがなくなれば直ぐにホームレスになってしまいます。

私達あすなるサポートステーションはまだできて3年目ですけども、今まさに子どもたちの生身の姿、声で私達はようやく感じはじめています。まさに現実に直面している毎日でございます。



退所後の進路に関する基礎調査（H27年度6月時点）
※平成28年3月卒園予定の高校3年生を対象とした調査（回答：県内29施設）

＜進学率の低さという課題＞
 ・2019年 厚生労働省福祉課による調査結果
 施設入所児の上位校進学率・・・23.3%
 単親家庭 ・・・46.3%
 一般家庭 ・・・75.5%
 ※生保家庭は32.9%（平成25年度調査）

	施設	施設以外	県内合計
退所予定者	40	50	90
進学希望者	8 (20%)	13 (26%)	21 (23%)
就職希望者	30 (75%)	28 (56%)	58 (64%)
未定者	4 (10%)	13 (26%)	17 (18%)

施設を出た方の進路がどうなっているかということをお知らせします。ご覧になるように、進学率がとてつもなく低いことがわかります。生活保護家庭が大学に進学する割合は32.9%です。本来生活保護世帯は大学進学は法律上できませんが、世帯分離などを行い進学する方もいらっしゃいます。

でも児童養護施設では、専門学校も職業訓練校も大学も含めて23%しか進学できておりません。さまざまな奨学金等もありますが、やはり生活を一人でやりながら進学をしながら、アルバイトで稼ぎながら、というのは子どもたちにとってはとてつもなく高い壁です。施設に入所している殆どの子どもたちは生きていくためには進学は諦める、と言って就職を選択します。

実際には、金銭的な問題以外に学力の問題もあります。彼ら彼女らの育ってきた家庭は生活保護家庭だったり、一人親家庭だったり、親御さんが精神的な問題を抱えていたり、ゴミ屋敷だったり、若しくはとてつもない環境の中で虐待を受けて育ってきたり、という家庭の子どもたちです。

おそらく宿題を見てくれる親御さんはいらっしゃらなかったと想定されます。勉強して頑張っても良い未来があるとは思えなかったのでは。ようやく一時保護所に入ってときにボランティアのおにいさん、おねえさんが学校の代わりに勉強を教えてくれるのが初めての勉強との出会いだという子どもたちが沢山いらっしゃいます。

その後施設に入ると学校に入るのに「転校」という難しい問題を抱えます。新しい学校でも、何年も何年も学校に行けてなくて取り戻すことにとても時間がかかってしまいます。そういう学力的な問題もあって進学を諦めてしまう子どもたちも多いです。

さらには住む場所の問題もあります。施設を出ると殆どの方が一人で暮らすこととなります。18歳の最後の3月31日まで施設にいらした方は最も自立が難しい状況です。データを集約できた90名の施設退所者のうち、家へ帰れたのは8名です。8名のうち実父母がいらした方は1名と、それくらい子どもたちには

過酷な状況です。支えがない中でどうやって外に出ていくのかという殆どは住込み就職を選択しておりました。彼ら彼女らには保証人がいません。保証を書いてくれる親御さんがいません。今でこそ施設の所長さんたちが保証をしてくれませんが個人でできる限度額もあります。そのため、子どもたちは自分でアパートを借りることができません。20歳になるまでは契約行為は難しいので、会社名義で契約している寮が付いている会社に就職することになります。

生まれながらの孤児たちは、施設でひとり立ちするためにマラソン等の運動をしたり体力や精神力を鍛えて育ちます。それに対し、今施設にいる子どもたちは、施設に入るまでの切り捨てたいたくさんの思い出があります。施設にいる子どもたちは「絶対に忘れない日」が2つあります。一つは児童相談所の人に出会って保護された日、もう一つは施設に入所した日・・・子どもたちが「誕生日」と呼びます。そこからが人生が始まったんだ、それまでの人生はできれば失くしてしまいたい、と言っています。

その子どもたちが住込み就職をする業種は限られてしまいます。男の子は建築関係、女の子は工場に行く子が殆どです。実は離職率が非常に高いのが現状です。やはり実家の支えがある子どもたちと全く支えのない中で一人で頑張っている子どもたちとは、とてつもなく環境が違っていると感ずています。一番の問題は万が一仕事を止めてしまうと住む場所も一緒に失くしてしまいます。私達は施設を出た子どもたちの相談支援を主にさせて頂いています。私達のサポートを受ける子どもたちは大体の子どもたちはお仕事を止めてしまったら住む場所もなくなってしまった。もうお金も底をついて、今までは漫画喫茶に泊まっていた、何とか友達にお金を借りて転々としていた・・・それも尽きてしまって、つながりまで尽きてしまった。皆から嫌がられてしまった。これを私達は「4なし」と呼んでいます。①仕事がない②お金がない③住む場所がない④つながりがない。

この状態で私たちにつながって参ります。その子どもたちに対して私達職員一同は何とかして支えてあげたいと思っております。施設の子どもの世話もあり、なかなか外に出られない。施設の職員さんと手分けをして住む場所を失った子どもたちの場合は住居探しや、場合によっては役所に動向を確認し

に行ったりしてソーシャルワークをさせていただいております。

配布した資料の中でご説明しますと私たちが前年度に受けた相談件数が 1,116 件になります。多くの相談が私たちに寄せられました。一度相談にのると、殆どの子どもたちが仕事だけでなく、お金だけでない、たくさんの精神的な問題を抱えている事が分かりました。

殆どの子どもたちは、施設を出た後に、施設に入る前の過酷な環境を思い出したり、頼るところがなく自分の人生がこの先どうなっていくのかとてつもなく大きな不安を抱えながら、一生懸命頑張っていくのですが、心が折れてしまう、そういう子どもたちも正直いらっしゃいます。

寄せられる相談は多岐に亘ります。子どもたちそれぞれに違う問題を抱えていて一括りにできないのが現状です。だからといって、

子どもたちは社会の中で全く生きていけないのか、と言えばそうではありません。皆様の前でこうやって御挨拶させて頂くのはありがたい機会だと思ひまして、今ご覧のものはあすなろホームステーションの写真です。マンションの1室を借りて相談室として改装しております。

子どもたちに「お帰り」といえる雰囲気することを大事にしております。ホームステーションでは子どもたちの相談にのったり、毎週土曜日にご飯を食べられるようにしております。お金はとっておりません。週に1回顔を合わせて心の拠り所になれるように、一緒にご飯を食べることで何とか明日への活力が芽生えるように、と支えていければと思ひながら活動しております。

実際に子どもたちに話を聞くと壮絶な内容でした。

事例としては、住込みで就職したが、退職したら行き場所がなくなった。この状況ではホームレ

会場：クリスタルホテル 5F ボンヌ シャンス

ムレスになったりとか、女の子の場合は水商売という場所にあつという間に引っ張られてしまって・・・行方不明になるのはそういう方が殆どです。まだスナックとかキャバクラとかで一生懸命頑張る子どもたちもいますが、どんなに私達が手を差し伸べても、生きていくためには後ろめたい水商売に落ちてしまった子どもたちがすごく沢山いました。

中には軽犯罪に手を染めてしまって少年院へ行った方も。また何とか頑張ろう、頑張ろうと真面目に努力していた結果、心を病んで精神科は入院した子どもさんもいらっしゃいました。

児童養護施設で高校に進学できるようになったのは最近のことですが、それでも高校さえいけなかった子どもたちもいます。国の児童養護の予算は約3600億円と言われていますが、少子化の中でどんどん虐待を受ける子どもたちが増えていく現状では対応できないといえます。そのような中で私たちは、一般家庭で育った子どもたちよりかなり幼くて精神的に脆い子どもたちを支えております。

今回ロータリークラブ様でお話をさせて頂くということで、是非皆様にお伝えしたいことがあります。「子どもたちを仕事通して育てていただければ、と思います。」生活のしんどさが背景にあること、虐げられて育った過去をもっていることをご理解頂きたいです。子どもたちは親を選ぶことができませんでした。入る施設も選ぶことができませんでした。理解のある事業主さんがいることで子どもたちは何とか生きていけると思います。

子どもたちの自立に対するお手伝いをお願いできれば幸いです。

本日は御清聴、ありがとうございました。

